

ルオーの裸婦

当館が作品を所蔵するジョルジュ・ルオー Georges Rouault (1871-1958) は、人間の苦悩や慈愛を、独自の主題と表現を通して描いた 20 世紀フランスを代表する画家です。昨年当館は、ルオーの初期油彩画《裸婦》(1908 年) を新たにコレクションに加えました。

西洋美術に表現される裸婦は、伝統的には歴史画や寓意画において理想化された肉体をもつ女性として描かれ、また 19 世紀以降は、ギュスターヴ・クールベの絵画にみられるように、現実の女性を想起させる「リアルな」姿でも描かれました。ルオーも画業の極めて早い時期より、古典絵画の伝統に倣って森の中の浴女を描くなど、裸婦の表現に向き合いました。特に、1907 年にサロン・ドートンヌで開催されたセザンヌの大回顧展で大水浴図を含む多数のセザンヌ作品を見てからは、裸婦を描いた作品はその数を増していきます。

ルオーが裸婦のテーマに取り組んだ目的は、なによりも造形上の探求でした。身体の流麗なラインが生み出す唐草文様のような装飾性。ふたつの身体が織りなす優美な形態。様々なポーズをした複数の裸婦を自然の景観の中にリズムカルに配置してつくるコンポジション (構図)。ルオーはこうした造形表現を、裸婦という主題を繰り返し描くなかで深く追求し、極めていったのです。

この度のルオー・ギャラリーでは、単身の女性像を量感豊かに描いた油彩画《裸婦》を収蔵品として初めて展示するとともに、裸婦をテーマとするルオーの油彩画、版画、陶器作品を紹介します。ルオーの絵画世界を支える流麗で力強い線の表現や調和のとれた構図の魅力をご堪能下さい。



ルオー・ギャラリー 現在展示中の作品

ルオー・ギャラリーでは、パナソニック汐留美術館の日本でも有数のルオーコレクションから、テーマごとに作品を展示しています。

ルオーの裸婦

2021年5月13日(水)～6月13日(日)

No.	作品名 Titre	技法／材質 Technique and Support	サイズ (H x W cm) Size	制作年 Date
1	裸婦 <i>Nu</i>	油彩／紙 Oil on paper	32.9 x 24.8	1908年
2	<small>はなぞお</small> 花蘇芳の側にいる水浴の女たち <i>Baigneuses à l'arbre de Judée</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	40.4 x 62.6	1925-29年
3	裸婦『悪の華』 <i>Nu, Les Fleurs du Mal</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	30.4 x 22.7	1930-39年頃
4	水浴の女たち <i>Baigneuses</i>	ファイアンス Fiance	45.0 x 20.0	1909年
5	人物のいる風景 <i>Paysage animé</i>	木炭、パステル／紙(紙と麻布で裏打ち) Charcoal and pastel on paper lined onto paper and linen	83.8 x 121.6	1897年
6	秋 <i>Automne</i>	シュガー・アクアティント、アクアティント／紙 Sugar aquatint, aquatint on paper	50.3 x 65.2	1938年頃

特別出品：ルオー生誕150周年記念撮影コーナー

7	マドレーヌ <i>Madeleine</i>	油彩／紙(麻布で裏打ち) Oil on paper lined onto linen	49.1 x 34.2	1956年
---	---------------------------	---	-------------	-------

※作者は全てジョルジュ・ルオー Georges Rouault (1871-1958)です。
※作品の所蔵先は全てパナソニック汐留美術館です。
※作品名のみ、欧文はフランス語での表記となっています。
※番号は展覧会会場の展示順序と必ずしも一致しません。